—何とおかしいことを言いますね！貴方が退屈で面白くないなんて。今に分かりますよ、いかに私が貴方を元気づけるか...何と良いこと、そこで私達が過ごせることが！水着を持って行くことを忘れないでください、海岸に行きましょう、そして帰りは、真っ黒になって、私達は世間に言いましょう、何日かコスタ　デル ソルで過ごしたと。
—私達は仕事で行くことを忘れないでね。
—はい、私は忘れていませんよ、仕事の状況に置かれれば、この汚い事務所よりは海岸で（仕事）をすることを選びます。
—スシ、スシ...
—聞いています、ボスこの紙は何ですか？
—此れ？ヘスス オネトの手帳の一枚だ。不思議に思ったのでちぎってきた。しかし何なのか分からない。
—どれどれ、XZUHJES－１６、何のことか、何て変だなこと！

★　★　★　★

その日の朝、ペペは事務所に一人でいた。スシは美容院に行き何か買い物をする。旅までたった二日を残している。スシがいない時、ペペはどうして良いかわからない気分でいた。午前中一杯、電話の中断がなかった。最初にテレサが電話をしてきた。（理由は）1 もしかしてペペが何か証拠を得たかもしれない、2 ロメラレスが彼女と話をするために再び彼女の家にやって来たこと、3 ペペに沢山話をしたい、何故なら悲しみと心配は続いている。その後、フアン ルイス アメストイが電話をしてきて彼（ペペ）に言う、ロメラレスが雑誌社にやって来て編集長と話合い、その後、彼（アメストイ）と話をし、マラベージャに滞在していたヘススの説明をした、ロメラレスは彼に質問した、もしかしたてペペ レイがこの事件に介入しているかと、フアン ルイスは（事実）話をしなければならなかった、しかし彼（アメストイ）はロメラレスには（ペペに）与えた資料について何も言っていない。